

# Why not Volunteering?



buvcc1  
学生ボランティア室



ボランティアの語源は  
ラテン語の"Voluntas (自由意志)".  
あなたの「やりたい気持ち」が  
誰かを笑顔にできるかも。



ボラ室が気になるすべてのひとへ

## all about us!!

ガクチカ、友達づくり、社会貢献・・・  
きっかけは何でもOK!

- ▶学生ボランティア室ってどんなところ?
- ▶学生スタッフ紹介
- ▶ボランティア分野紹介～どんなボランティアをしてみたい?～
- ▶活動紹介1 ウクライナ人道支援企画
- ▶活動紹介2 宇多野病院合同企画
- ▶活動紹介3 洛和会合同企画
- ▶REAL VOICE ～ボランティア体験談～

マイトゥリーとは、古代インド  
の言語で「最高の友情」  
という意味です。



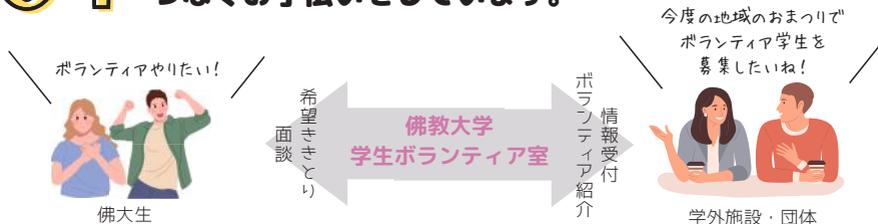
社会連携センター学生ボランティア室  
buvcc@bukkyo-u.ac.jp

# ボラ室ってどんなところ？

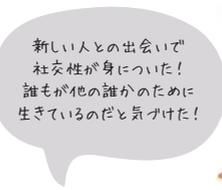
— What is Volunteer Room like? —



## 01 ボランティアを必要とする施設・団体と学生をつなぐお手伝いをしています。



## 02 ボランティアから得られる経験ややりがい、人と繋がる素晴らしさを伝えています。



▶▶▶▶▶ ボランティア体験談はP13～！

## 03 自分たちでもボランティアの企画や提案をしています。



- ・大学キャンパス周りの清掃
- ・高齢者の方のリズム体操
- ・入院中の子どもたちに絵本の読み聞かせ
- ・戦争が起こっている地域への支援方法

▶▶▶▶▶ ボラ室の企画内容はP7～！





## 04 とどき学生同士で、ボードゲームなどをして交流を深めます。活動や意見交換が活発になるきっかけにも！

ええやん



この前の企画、大成功だったよなあ・・・  
もっとこういうこともしたいんだけど、どう思う？  
一緒にやらへん？

元々ボランティアに興味があった、ガクチカを作りたい、友達をつくりたい、企画力をつけたい・・・など、スタッフになるきっかけは人それぞれ。少しでも気になったら、ボランティア室に来てください！

## Column ～4大学ポラ室交流会～

2022年11月27日(日)@佛敎大学 紫野キャンパス



このイベントは4大学が共同で企画したもので、今後の各大学のボランティア室の活性化のために開催されました。  
「ボランティアについて」、「ボランティアコーディネーションについて」というテーマでは、各大学のスタッフが進行を担当し、それぞれの事例を共有しました。

「ボランティアをする意味」についてのディスカッションでは、哲学的な問いになっていくグループもあり、考えの違いを認め合ったり、多角的な視点に気付く有意義な時間となりました。





学生ボランティア室の主役!

Student Staff

# 学生スタッフ紹介

面白いを  
みんなで!



代表

社会福祉学科 3年  
**阿江 香菜子**  
AE Kanako

笑顔が拡がります  
ように



副代表

歴史文化学科 2年  
**福谷 紀輝**  
FUKUTANI Noriki

みんなを笑顔に😊



臨床心理学科 3年  
**馬場 歩斗**  
BAMBA Ayuto

みんなの  
ボランティアの  
中心に



社会福祉学科 3年  
**東 杏朱**  
HIGASHI Anju

活き活きとしたボランティアを!



臨床心理学科 3年  
**松本 季長**  
MATSUMOTO Tokinaga

“ワカカ”を  
もっと!!



日本文学科 3年  
**河合 未空**  
KAWAI Miku

誰かの笑顔  
のために



社会福祉学科 4年  
**澤 知樹**  
SAWA Tomoki

迷ったろ  
行動!



仏教学科 4年  
**大西 隆文**  
ONISHI Takafumi

アットホームな場所です。  
(アット企業じゃない)



歴史文化学科 2年  
**荒堀 七音**  
ARAHORI Kazune

色々な経験を  
一緒に積みましょ!



公共政策学科 2年  
**鈴木 香音**  
SUZUKI Kanon

ボランティアの経験で  
新しい可能性を広げる。



社会福祉学科 2年  
**勝山 杏珠**  
KATSUYAMA Anju

たくさんの経験をしませんか?



英米学科 3年  
**高瀬 駿**  
TAKASE Shun

笑顔を届けて  
沢山の人を幸せにする!!



英米学科 3年  
**三原 可鈴**  
MIHARA Karin

好きを  
ボランティアに!



公共政策学科 2年  
荒川 慶太  
ARAKAWA Keita

ボランティアで  
交流を拓けよう!



公共政策学科 2年  
大石 敬太  
OISHI Keita

自分と人の為の  
経験を!!



歴史学科 3年  
上原 宙来  
UEHARA Sora

自分の知識の幅や  
人生経験を広げる



社会福祉学科 2年  
伊藤 にこ  
ITO Niko

## Column ~ 鷹陵祭の出店 ~



11月3日~5日にかけて鷹陵祭(佛教大学の学園祭)がありました。昨年度は飲食物模擬店として、ポラ室のメンバーでフランクフルトを出店しました。

企画や買い出しなど、大変なこともありましたが・・・3日間で、計419本のフランクフルトが売れて大盛況!

ボランティアの企画をするうえで一番大事なことは、スタッフ間の連携と信頼関係の自由意見が言い合え、よりよいボランティア室にしていくという点でも、大きな意味がありました。

楽しくスタッフ同士の交流を深められ、ポラ室の雰囲気も明るくなりました(^\_^)





# ボランティア 分野紹介

## 福祉・高齢者・障がい者

福祉施設でのお手伝いや、利用者さんとインターネットを通じてお話ししながら一緒に飾りを作るオンラインサロン、また、地域のイベント運営の補助などもあります。

## 地域活性化・地域づくり

地域の方と一緒にゴミ拾いなどの清掃活動や、地域のイベントに参加することもあります。

## 子ども・教育

子ども食堂やフードパントリーの運営協力、子どもたちと公園で一緒に遊んだり、学習面でのサポートをすることもあります。ボランティア室では、入院中の子どもたちに絵本の読み聞かせ動画を作ったりもします。

## スポーツ・文化

パラスポーツの大会の運営協力、障がいのある方がスポーツを始めるきっかけとなる教室の運営サポートなどもあります。

etc....



他にも、災害支援、環境問題、国際協力、芸術など多岐に渡ります！あなたが興味のある分野は見つかりましたか？もちろん、自分たちで新しいジャンルにチャレンジもしてみてください！(^^)／



# ウクライナ人道支援企画

2022年2月下旬

ロシアがウクライナ  
への侵攻を開始

4月1日

4月1日付にて  
佛教大学HPで  
学長メッセージ  
発表



4月中旬

学生ボランティア室  
と社会連携課で  
支援内容について  
検討・準備



## 学生ボランティア室

### 取り組みについて話し合い

「ウクライナのためにボランティア室ができること」というテーマで企画を検討。はじめてボランティア室に来た1年生も、何に取り組めるか一緒に考えました。



### 募金箱の作成・設置

「佛教大学ウクライナ人道支援募金」のための募金箱を学生ボランティア室メンバーが作成。学生対応部署をはじめ、学内店舗も快くご協力くださり、学内約15か所に設置することができました。



### オリジナルグッズの作成

フリーマーケットと併せて、オリジナルチャリティーグッズを作成。売上は、武器購入など戦争に加担することのない団体に寄付。



### フリーマーケット開催

学生ボランティア室スタッフと、多くの教職員のご協力のもと物品を集めました。少しでも多くの寄付額を集められるよう、魅力的な値段設定やセット売りの工夫をしました。



▲パネル展も同時開催！

5月上旬

募金口座開設  
募金箱設置  
募金受付開始



5月上旬

食堂等の学内店舗で  
特別メニューの提供  
・特設コーナー設置



5月下旬

ウクライナ人道支援  
フリーマーケット  
開催



6月22日

日本赤十字社に  
支援金483,489円  
を寄付



## 学内店舗にもご協力いただきました

1号館および5号館食堂、鷹陵館喫茶、鹿浜館書籍部、コンビニ、二条キャンパス食堂の皆さまにご協力いただきました。特別メニューの売り上げの一部および寄付金は、「佛教大学ウクライナ人道支援募金」として日本赤十字社に寄付されました。

### ▼鷹陵館喫茶



1号館・5号館食堂▲

### ▼二条キャンパス食堂



▲鹿浜館書籍部  
(情勢関連コーナー)



▲コンビニ (募金箱設置)

## カルヤーナ・ミトラ、 傳道部による托鉢も

フリーマーケット開催に合わせて、宗教教育センターの学生団体「カルヤーナ・ミトラ」と傳道部の学生たちにもご協力いただきました。



## 日本赤十字社に寄付

本活動で寄せられた募金の総額は、483,489円となりました。支援金は、6月22日に日本赤十字社京都府支部に寄付しました。



ボラ室でウクライナ支援を考えることになったとき、一番先に思い浮かんだ方法は「募金」でした。それも、戦争に加担することになる「武器購入」につながらない募金です。しかし、そんな小さな支援しかできない現実を痛感しました。

一方、今まで「世界のどこかで起きていること」から目を背けていましたが、ニュースを見て友達や家族と喋ってみたい、助けたいという気持ちを周りの人と共有してみることも、同様に大切だと考えるようになりました。「知らない」、「語れない」ことが一番あってはならないことだと思います。ボラ室の活動が誰かの行動のきっかけになれば、学生スタッフとして大変うれしく思います。

学生ボランティア室スタッフ

# 宇多野病院合同企画



佛教大学紫野キャンパスから車で約15分の場所にある宇多野病院。コロナ禍でも継続して、一緒に活動させていただいています。



## 院内の飾り付け作り

いつも同じ窓から景色を見ている患者さんたちに、季節の風物詩として6月にはカエルやアジサイを、11月にはクリスマスツリーやトナカイを画用紙で作り、プレゼントしました。

## 病院訪問

手作りの制作物は、直接病院を訪問してお渡ししています。病院内を案内していただき、院内を明るくしようというスタッフの皆さんの工夫を見て学ぶことも多くあります。



## クレイケーキ作り

病院の保育士さんの、「患者さんにとって、誕生日は1つ歳を重ねる大切な日。」という言葉の思い出しながら、患者さんが、親しみ、驚いてもらえるように、ポップで華やかなケーキを意識して心をこめました。



# 絵本の読み聞かせ動画



『ネズミに騙されたネコ』と、学生スタッフが作った2つの絵本の読み聞かせの動画を撮りました。様々な状況の患者さんがいるため、音楽や色彩などいろんな点にこだわり、伝わるように試行錯誤して撮影、編集を重ねました。

絵本をイチから手作りして、手紙を添えてプレゼントしました！



クリスマスソングの動画もお贈りしました！



学生ボランティア室の皆さんへ  
(一部抜粋)

対面できない中、思いを馳せながら繋がりたくして下さる気持ちに、とても嬉しく心から感謝しています。皆さんの趣味？特技も披露していただいたり、色々とお話しもしてみたいです。

私たちの中間の半数以上は、声を発することもままなりません。私をはじめみんなもクリスマスの動画を見ながら、心の中で一緒に歌っていたと思います。その様子をお届けできず残念ですが、想像していただくと嬉しいです。

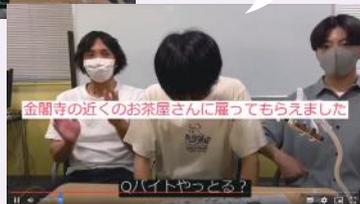
宇多野病院より

# プラモデル動画

プラモデルがお好きな患者さんのために、実際に組み立てる様子を動画で撮影しました！見やすいよう字幕を入れ、大学生の普通の生活に関する質問コーナーを入れるなどの工夫もしました。コロナ禍で一度もお会いできていませんが、会話しているようで、患者さんを近くに感じました。



患者さんから  
お礼に素敵な  
グリーティングカード  
が届きました！



佛教大学



洛和ホームライフ  
北野白梅町



# オン 関係

画面越しで  
ご縁を繋ぐ！



学生スタッフと利用者さんで  
一緒につくった笹。願いごとは??

七夕といえば短冊の願いごと。学生たちが笹の葉のイラストを描いて、そこに全員で短冊をつけていこう、というオンラインサロンを企画しました。まずは学生スタッフが願いごとを書いて、グループホームにお届けしました。

オンラインサロンが始まると、「近所のラーメン屋さんが繁盛しますように」、「彼女ができますように」、「美脚になりたい」などの大学生らしい願いごとに、利用者さんたちからは大きな笑い声が！画面の向こうの明るい笑顔が、心から嬉しかったのを覚えていきます。利用者さんの願いごと「健康第一！」には、学生スタッフも元気をもらいました。それぞれの願いごとが面白く、盛り上がった企画になりました。



## オンラインだからこそ、 温かみを！

感染症拡大の影響により、オンラインによる活動が中心になりました。洛和会ヘルスケアシステムさんとはコロナ前から交流があるため、私たちは「このご縁を繋ぎたい！」という思いで継続してオンラインサロンを開催してきました。オンラインサロンでは、Zoomで入居者

さんと何気ない会話をするだけでなく、事前に私たちスタッフが考案した企画を行います。学生スタッフはオンラインにもずいぶん慣れてきたため、昨年よりバージョンアップをした企画を考えました。例えば、折り紙にシールを貼るなどの手作業を伴う遊びや、リズムに合わせ手を叩く簡単な体操などです。脳トレや昔話に繋がるように流れを工夫し楽しんでいただけるよう努力しました。

最初は「どこ見て話したらいいの？」と不思議そうに画面を見つめる利用者さんたちですが、慣れてくると、学生スタッフが手を振り返すだけで「おもしろいなあ！」「すごいなあ」と言っていて楽しんでくれます。オンラインであっても人の温かさを感じられるような企画を、これからも考えていきたいと思っています。

# ライン だらうが ない！

ボランティアしょっ!

ボラ室学生スタッフ



# REAL VOICE



ボランティアを体験した学生スタッフのリアルな声を集めました!

## 人との出会いを通して、「新たな自分」と出会う

大学生になってはじめてボランティアを始めました。「ボランティアを始めて良かった」と思う一番の理由は、人との出会いです。自分が今までいた世界から一步踏み出して、子どもたちや視覚障がいのある方と出会い、自分の価値観がガラッと変わっていくのを感じています。人との出会いを通して、「新たな自分」と出会っている感覚です。私は元々人見知りなので、自分から人に関わりに行くようなことは苦手でした。しかし、ボランティアを通して、徐々に人との繋がり方が分かってきたような気がします。

by スタッフB

## 見えなかったものが見えてくる

学生ボランティア室の活動では、高齢者施設の職員さんから認知症のケアについて教わる貴重な機会をいただきました。そこで働いている私たち佛大生のOGのお話も聞きました。どれも私にとって今まで知らないことばかりで、新たな発見や経験が私の視野を広げてくれます。街で歩いていても今まで気にも留めていなかった人たちが見えてきた気がします(笑)。ボランティアには、普段暮らしていてもあまり馴染みのない人やモノとの出会いやきっかけが転がっています! ボランティアに参加したことがない人は、まずは自分が「やりたい」と思ったことに、とにかく参加してみたいです。そこで感じたことや、始める前と終わった後にどんな変化があるかをぜひ体験してみてください!

by スタッフA



## テキストでは学べない実践ができる

私は児童館の介助ボランティアをしています。介助ボランティアとは、発達障がいのある子どもたちのお世話をするボランティアです。私は社会福祉学部に所属しており、将来は子どもに関わる場所で働きたいので、自分にぴったりだと思っています。テキストでは学べない実践的な経験を得られたし、ここで培われる考え方が、今後自分のベースになると思っています。「ボランティアよりバイト」という人もいるかもしれませんが、対価を求めないからこそ生まれる主体性は決して無駄になることはありません。

by スタッフA

## 人のために行動する心地よさを感じました

「宇多野病院合同企画」では、季節にちなんだ壁面装飾を作って院内に飾ってもらいました。Zoomで院内を見せていただき、職員さんの「患者さんたちはいつも同じ窓から季節を感じている、少しでも日々の暮らしに彩りを感じられたら」というお話には胸を打たれました。職員さんや患者さんに喜んでもらえて、人のために行動する心地よさを感じました。

by スタッフT

## 自分の「好き」をボランティアに！

ボランティアの目的は、誰かを笑顔にすること、喜ばせることなど様々ですが、これらは「見返りを求めない愛を分け与えること」と同じだと思います。それは、自分の生活が整っていて心に余裕がなければ実現できません。なので、自分の好きなことや得意なことに関連したボランティアを選んだ方がいいです。2022年の活動を振り返ると、動画作ったり、細かい作業をしたり、セミナーやイベントの企画・開催など・・・、すべて私が得意なこと、やっていて時間を忘れるぐらい楽しいことでした。自分のワクワクは相手に伝わり、他の人の笑顔が生まれるんだと気づきました。

by スタッフM





BUKKYO UNIVERSITY

# 学生ボランティア室 道案内



7号館2階奥で  
待ってます～！  
遊びに来てね！！



動画でも  
みれるよ

**社会連携センター**  
**学生ボランティア室**  
 紫野キャンパス7号館2階(学習情報プラザ内)

開室時間 9:00～16:30  
 13:00～14:00は閉室 ※土・日・祝は閉室

7号館  
2階

マイトゥリーへのご意見・ご感想をお寄せください。\*マイトゥリーは年1回作成・発行しています

発刊日 2023年4月1日  
 編集・発行 佛教大学社会連携センター  
 学生ボランティア室  
 〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96  
 TEL:075(491)2141(代表)  
 E-mail:buvcc@bukkyo-u.ac.jp  
 Twitter:@buvcc0117  
 Instagram:@buvcc1



## 編集後記

今回のマイトゥリーを作成するにあたり、お力添えをいただいた方々に感謝しています。改めて、ボランティアを通して笑顔が広がると良いなと感じました。(福谷)

イチから文章を書くことは難しかったとしても悩みましたが、楽しかったです。(勝山)

冊子の作成は人生初で貴重な機会でした。読んでいただくためにデザインを考えるなど、この経験は今後の役に立つと思います。(大石)